



第5週
第2日

ティーフォー相模原球場
で行われ、関東大が8-1で先勝し、首位の神大が7-3で1勝1分とした。

◆1回戦 関東大1勝
横浜国大 1000000000
10004100200081
関東学院大

◆2回戦 神大1勝1分
横浜商大 100000002073
100023100073
神奈川大

首位の神大快勝

プロに進んだ大先輩と同じく立ち上がりは苦手だが、粘り強くマウンドを守るのが神奈川大の左腕重田だ。「内容は満足できないけれど踏ん張れた」。初回に先制点を献上したが6回1失点。今秋3勝目を飾った。

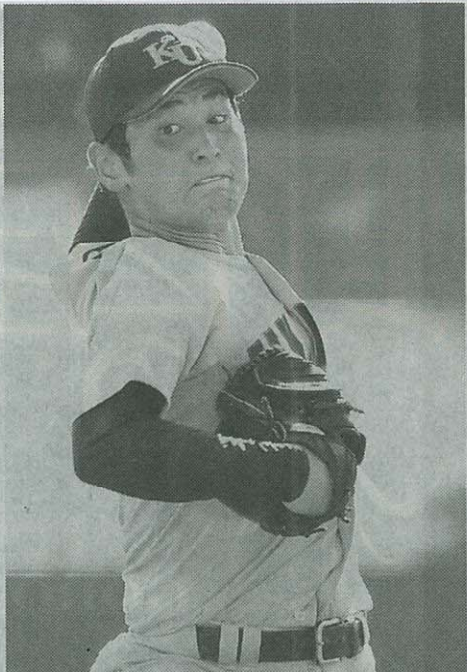
1-1の四回2死一、三塁。「春までこういう場面に変化球に逃げていた」という弱気を捨て、最速144kmの直球で三振にして切り抜けた。

この夜、甲子園での阪神戦で横浜商大出身の岩貞に投げ勝ち、ベイスターズを勝利に導いた2年前のエース浜口と同じ佐賀出身で、背番号17を継承している。重田は「浜口さんに憧れて神大に入った。いつか同じステージで投げたいで

重田粘投3勝目

「神宮での悔しさが彼を成長させた」と岸川雄二監督(45)。6月の全日本大学選手権は先発するも1回戦敗退。「自信を持って投げられなかった」。今夏は遠投を繰り返し返して、地肩強化に黙々と取り組み、雪辱の秋に備えた。あと1勝して、勝ち点を4に伸ばせば14年ぶりの連覇へ王手がかかる。指揮官は「残りはトナメント戦に挑む気持ちで戦うぞ」とナインにけきを飛ばす。

(矢部 真太、写真も)



力強い直球で6回1失点に抑えた神奈川大・重田。ティーフォー相模原球場

直球を軸に6回1失点に抑え、今秋3勝目を挙げた。第5週第3日は2日、同球場で神大-商大の3回戦、関東大-国大の2回戦を行う。

横浜国大打線から13三振を奪った関東学院大の左腕福本



関東大の左腕福本13K

今秋初完投に笑み

関東学院大の左腕福本 1・90で最優秀投手。たが13三振を奪い、今秋初完投。「やっとです。ほつとしました」と思わず笑みをこぼした。「投げ球を減らすことができた」と丁寧なコースを突く投球が復調。鈴木監督(47)は「五つ三振が取れたらいいなという投手だったけれど、今日は違った」と目を細めた。

優勝した昨秋は防御率

(矢部 真太、写真も)

5失点投球に唇かむ
①：横浜商大は逆転負け。初回一死から救援した藤村は「周りが見えていないので、守備のリズムをつくる投球ができなかった」と5失点の投球に唇をかんだ。初戦は同点に追い付いたが八回降雨コールドで引き分け。優勝へ望みをつなぐため、佐々木監督は「もう逆立ちしてもやるっきゃない」という姿勢で泥く戦わなければ」と誓った。